

浅間山

○火山活動度レベル（平成 18 年 10 月）

1（静穏な状況）

○概況（平成 18 年 10 月）

火山活動には特段の変化はなく、静穏に経過しています。

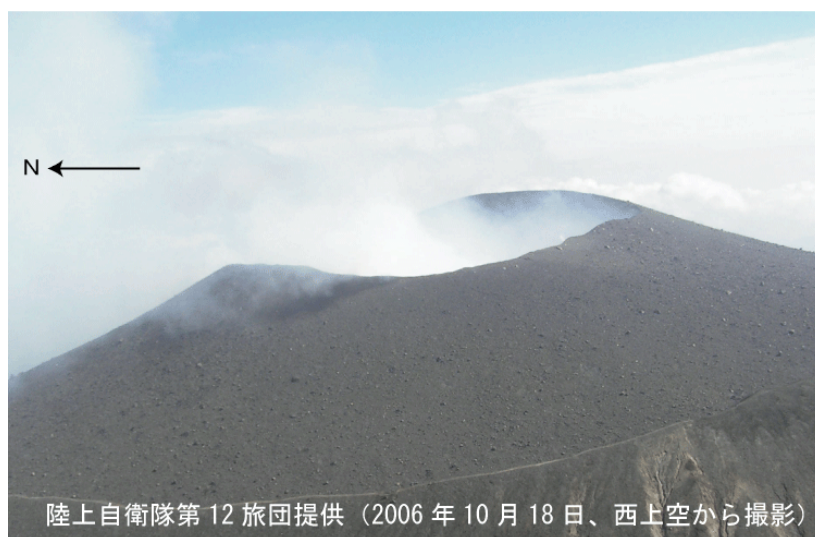


図 1※ 浅間山 噴煙の状況

※この資料は気象庁のほか、陸上自衛隊第 12 旅団、国土交通省関東地方整備局利根川水系砂防事務所、東京大学、独立行政法人産業技術総合研究所及び独立行政法人防災科学技術研究所のデータ等も利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50m メッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 17 総使、第 503 号）。

○噴煙および火映の状況

山頂火口からの噴煙活動は引き続きやや活発で、噴煙高度は火口縁上100～200mで推移しました（図1、図2-②、表1）。

今期間、火映¹⁾は観測されませんでした（図2-④、表1）。

1) 上昇した溶岩や火山ガスにより火口内が高温になった場合に、火口上の雲や噴煙が明るく照らされる現象。

○火山ガス（二酸化硫黄）放出の状況

19日と26日に実施した観測では、二酸化硫黄の放出量はそれぞれ1日あたり60～120トン及び50～100トンと前月（9月19日100～200トン/日）と同程度で、やや少ない状態が続いています。（図2-③、表1）。

○地震および微動の発生状況

火山性地震は、やや少ない状態で経過しました（図2-⑥～⑧、表1）。発生した地震のほとんどは周期の長い特徴を持つBL型地震（波形例は図5を参照）で、震源は求まっていますが山頂火口直下のごく浅いところに発生していると推定されます。また、BL型地震のほかに、周期の短い特徴を持つA型地震やBH型地震（波形例は図5を参照）も少数ながら発生しています。これらの地震のうち、求まった震源のほとんどが山頂直下の深さ約1～3kmに分布しており（図3）、これまでと比べて特に変化はありませんでした。

火山性微動は観測されませんでした（図2-⑤、表1）。

○地殻変動の状況

山体周辺のGPS連続観測（図2-⑨）では、特段の変化はありませんでした。

このほか、傾斜観測²⁾や光波測距観測³⁾（図2-⑩）でも、火山活動の高まりを示すような変化はありませんでした。

2) 火山活動による山体の傾きを精密に観測する機器。火山体直下へのマグマの貫入等により、山体が膨張・収縮した場合に変化が観測されることがある。

3) 光波距離計を用いて山体に設置した反射鏡までの距離を測定する機器。火山体直下へのマグマの貫入等により、山体が膨張・収縮した場合に距離の変化が観測されることがある。

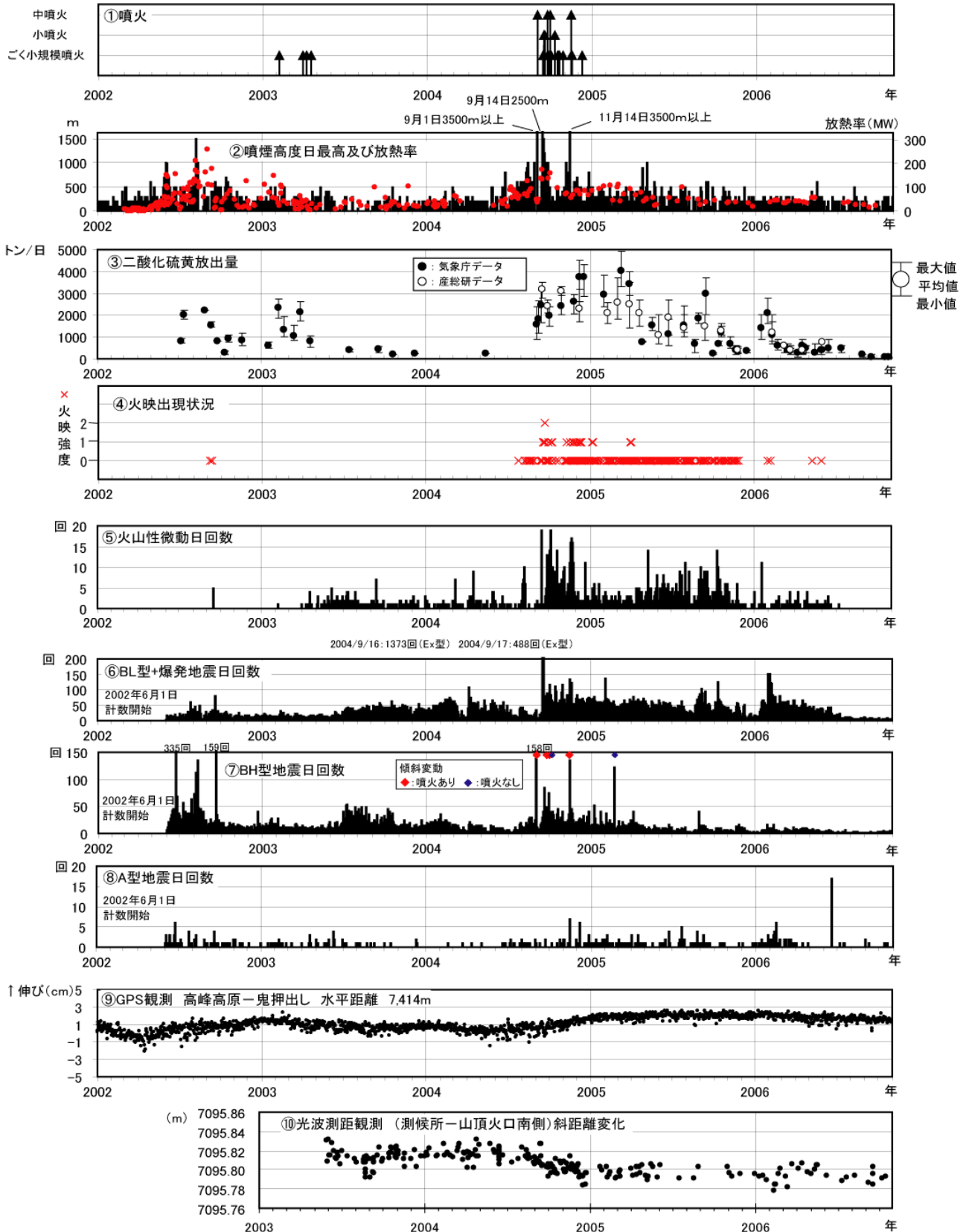


図 2※ 浅間山 最近の火山活動の推移 (2002 年 1 月～2006 年 10 月)

③の二酸化硫黄放出量グラフには産業技術総合研究所によるデータも含まれています。

⑥、⑦及び⑧は、地震の種類別(図5参照)に計数を開始した2002年6月1日からのデータを掲載しています。

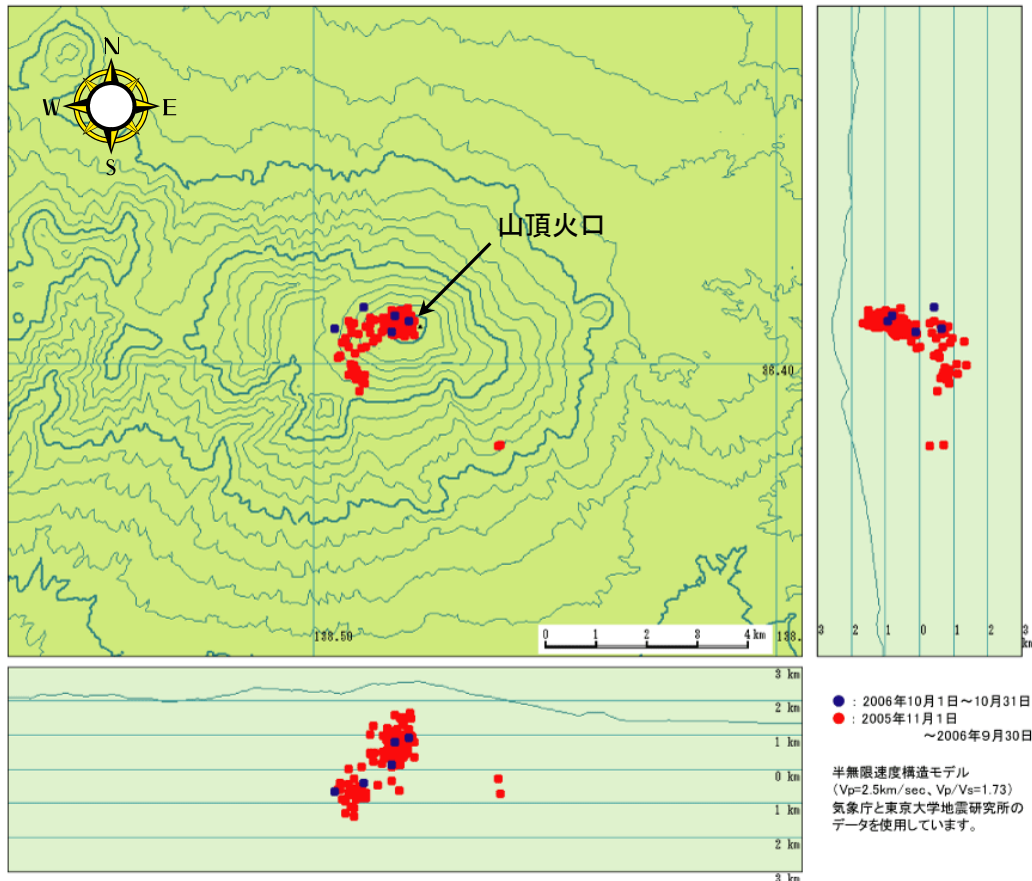


図3※ 浅間山 火山性地震の震源分布 (2005年11月1日～2006年10月31日)
震源計算には気象庁及び東京大学地震研究所のデータを使用しています。

○観測点情報

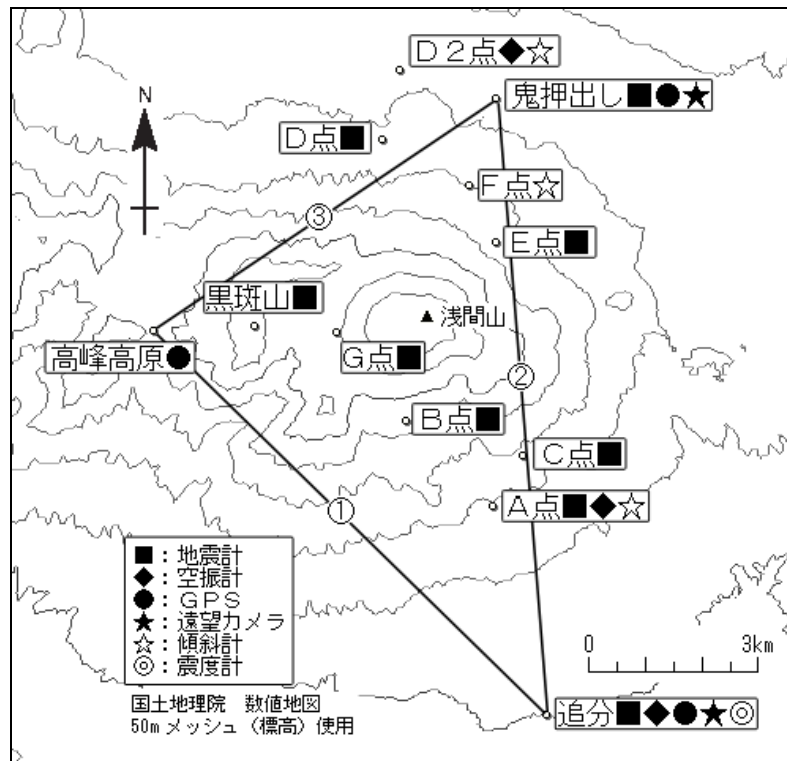


図4 浅間山 気象庁の観測点配置図 (小さな白丸は観測点位置を示しています)

表1※ 浅間山 2006年10月の火山活動状況

	噴火回数	火山性地震の回数 4)						地震合計	微動回数	噴煙の状況 5)		火映強度 6)	備考
		A型	BH型	BL型	Ex型	その他	日最高(m)			噴煙量			
1日	0	0	4	3	0	0	7	0	X	X	X		
2日	0	0	1	3	0	0	4	0	X	X	X		
3日	0	0	2	8	0	0	10	0	X	X	X		
4日	0	0	1	3	0	0	4	0	X	X	X		
5日	0	0	4	4	0	0	8	0	X	X	X		
6日	0	0	0	1	0	0	1	0	X	X	X		
7日	0	0	2	3	0	0	5	0	X	X	X		
8日	0	0	0	2	0	0	2	0	X	X	X		
9日	0	0	3	1	0	0	4	0	200	X	-		
10日	0	0	4	6	0	0	10	0	200	1	-		
11日	0	0	1	5	0	0	6	0	X	X	-		
12日	0	1	1	6	0	1	9	0	100	1	-		
13日	0	0	5	7	0	0	12	0	300	2	X		
14日	0	0	3	4	0	0	7	0	X	X	X		
15日	0	0	4	5	0	0	9	0	100	X	X		
16日	0	0	4	0	0	0	4	0	200	1	-		
17日	0	0	2	3	0	0	5	0	200	2	-		
18日	0	1	0	4	0	0	5	0	200	1	-		
19日	0	0	0	6	0	0	6	0	300	2	X	SO2放出量:60~120トン/日	
20日	0	0	3	4	0	1	8	0	100	X	X		
21日	0	0	3	9	0	0	12	0	300	2	X		
22日	0	0	3	5	0	0	8	0	X	X	X		
23日	0	0	2	0	0	0	2	0	X	X	X		
24日	0	0	1	0	0	0	1	0	X	X	X		
25日	0	0	1	2	0	0	3	0	X	X	X		
26日	0	0	2	6	0	0	8	0	100	X	X	SO2放出量:50~100トン/日	
27日	0	0	5	7	0	0	12	0	X	X	X		
28日	0	0	1	6	0	0	7	0	X	X	X		
29日	0	0	3	1	0	0	4	0	X	X	X		
30日	0	0	3	2	0	0	5	0	X	X	X		
31日	0	0	0	1	0	0	1	0	300	1	X		
合計	0	2	68	117	0	2	189	0					

4) 計算基準：B点振幅0.1μm以上でS-P時間3秒以内、火山性地震の種類は以下のとおりです。

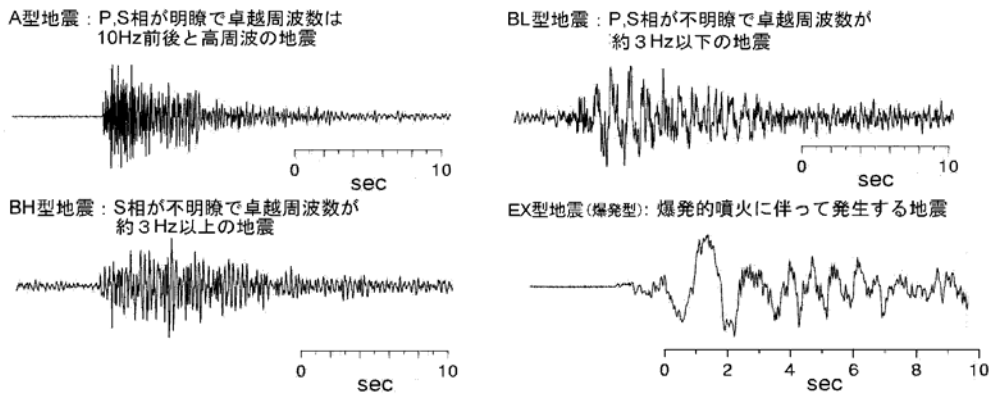


図5 浅間山 主に発生している火山性地震の特徴と波形例

5) 噴煙の高さと噴煙量は定時観測（09時・15時）の日最大値です。噴煙量は以下の7階級で観測しています。

- 1：極めて少量 2：少量 3：中量 4：やや多量 5：多量 6：極めて多量
- 7：噴煙量6以上の大噴火。噴煙が山体を覆うぐらい多く、噴煙の高さは成層圏まで達したとみられる

6) 火映の強度は以下の4段階で観測しています。

- 0：肉眼では確認できず、高感度カメラによってのみ確認できる程度 1：肉眼でようやく認められる程度
- 2：肉眼で明らかに認められる程度 3：肉眼で非常に明るい色で異常に感じる程度
- ：火映なし ×：視程不良（終日観測できなかった場合）